

を二たびおこしけるとかや、そのかみめづらかにあやしきまゐるしどもなんとあらば、いけるごと
となんと、さまざまいふなるは例のおろかなる世人をあざむきならへる、佛の道のくせぞかし
と、うるさくてなほざりにのみき、すぐす、

〔延喜式神十名〕下野國十一座略○中

那須郡三座並小○ 温泉神社略○中

陸奥國一百座略○中

玉造郡三座並小 温泉神社 荒雄河神社 温泉石神社

磐城郡七座並小○ 温泉神社略○中

出雲國一百八十七座略○中

意宇郡卅八座大一座、小卅七座、○中略 玉作湯神社

〔伊呂波字類抄諸社〕湯神社伊與温泉郡四座内

〔延喜式神十名〕伊豫國

温泉郡四座 湯神社

〔古史傳神代〕和名抄に、伊豫國温泉郡あり、湯訓には、此も風土記には湯郡と作き○中さて神名式に、

此郡に湯神社あり、祭神は大己貴命、少彥名命なりと或書どもに云へり、窠然るべし今も松嶺二當今も松嶺二字の道後と云處に温泉ありて、諸人浴す、温泉の上なる小社、すなはち湯神社なりと國人の説なり、

〔東海道名所記〕伊豆の山は走湯山共いふ、こゝにまします御神をば走湯權現と申奉る、むかし
かまくらの右大將源朝伊豆はこねを信じ、つねに二所參詣をいたし給へり、此所に出湯あり、石
はしるたきの如くなれば、走湯とは申すとかや、